



蔵人邸では  
季節の移ろいを  
身近に感じられます。

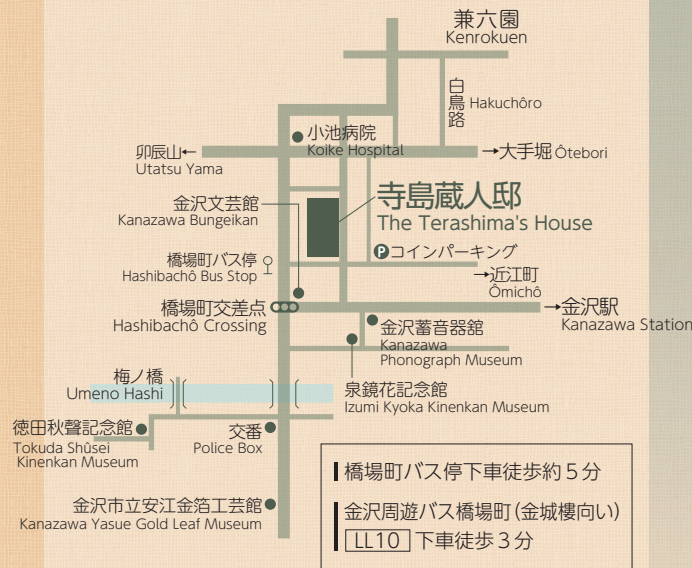


旅の思い出にスタンプをどうぞ

### ご利用案内

- 開館時間 午前9時30分から午後5時まで  
(入館は午後4時30分まで・呈茶は午後4時まで)
- 休館日 毎週火曜日(祝日の場合は翌平日)  
年末年始(12月29日～1月3日)  
展示資料の整理等のために必要とする期間
- 入館料金 一般 310円  
団体(20人以上) 260円  
65歳以上・障害者手帳(※)をお持ちの方  
およびその介護人 210円(祝日無料)  
高校生以下 無料
- 抹茶料 1人につき 350円

(※) 障害者手帳アプリ「ミライロID」の提示でも対象となります。



金沢市指定文化財 史跡

## 寺島蔵人邸

〒920-0912 金沢市大手町10番3号  
TEL.076-224-2789 FAX.076-204-8076



<https://www.kanazawa-museum.jp/terashima/>



武家屋敷

寺島蔵人邸



應養后

牡丹折枝図 寺島応養(蔵人)筆  
ぼたんおりえだず



## 寺島蔵人一波瀾万丈に生きた加賀藩の武士

寺島蔵人(1777~1837)は、禄高450石の中級武士として加賀藩に仕え、高岡町奉行、改作奉行、など主に藩の農政、財政方面の実務を歴任しました。文政7年(1824)、12代藩主前田斉広が有能な藩士を抜擢し、教諭方という藩政改革のための親政機関を設置すると蔵人も一員に加えられましたが、その年斉広の急死により教諭方も解散しました。蔵人は手腕家であると同時に生来、思いやり深く正義感の強い人であったため、斉広死去後の藩の重臣の政治に納得がいかず、これと対立し、文政8年(1825)、役儀指除、天保8年(1837)、能登島流刑となり、その年同地で波乱に満ちた生涯を閉じました。明治16年(1883)、死後46年を経て、蔵人は名誉回復をすることができました。旧藩主前田家からは、祭祀料と蔵人の功績を偲ぶ和歌が贈られています。蔵人は画家としても知られ、王梁元、応養と号し、秀作を多数遺しています。



大小拵え

## 主の美意識を感じる寺島邸

寺島邸の建築年代は、蔵人の祖父にあたる五郎兵衛恵叙が安永6年(1777)現在地に邸地を拝領し、屋敷を構えたという記録により、18世紀後半と考えられます。

江戸時代には南側小路に面して長屋門がありましたが現在は失われ、家屋も一部縮小改築されていますが、現存する家屋、土蔵、土塀は中級武家屋敷の旧態をよく伝えており、家屋に隣接する庭園とともに昭和49年(1974)金沢市指定文化財史跡となり保存されています。



1階には13畳半の座敷、5畳の茶室、文化5年(1808)寺島邸を訪れた浦上玉堂が琴を弾いたという4畳の間ほか数室があります。2階8畳の間は蔵人の画室「白雲深処」と伝えられています。庭園は庭内中ほどの池、蔵人が造らせたという三重九輪の塔を中心に広がる池泉回遊式庭園です。この池は水がなく、これに因み蔵人はその書齋を「乾泉亭」と名付け、浦上玉堂が「乾泉」の扁額を遺しています。春のドウダンツツジの開花、秋の紅葉が特に見事です。



りょうらくず 漁染図 寺島応養筆



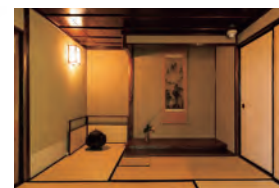
ぞうがんばん おうぜもんあぶみ 象嵌牡丹に扇文鏡 蔵人愛用



乾泉 浦上玉堂筆

## 茶室から楽しむ池泉回遊式庭園

茶室は、5畳本勝手席、家の中につくられた囲いという形式です。出入口は「貴人口」で、武士らしい茶室です。茶室では、寺島家の家紋の形に作った干菓子で抹茶を召し上がっていただくことができます。茶室から蔵人が眺めた景色をお楽しみください。

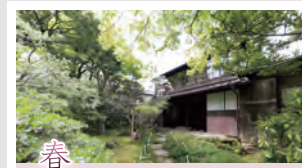


## 360°動画で巡る 寺島蔵人邸の四季



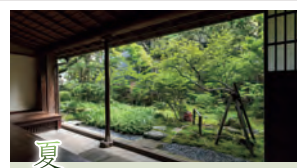
二次元コードを読み取ると各季節の動画を閲覧できます。

スマートフォンやタブレットを動かすことで視点を変えられます。



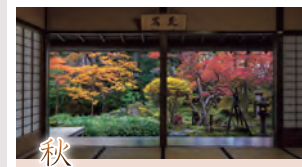
春

ドウダンツツジが満天星のように真っ白に開花する春。



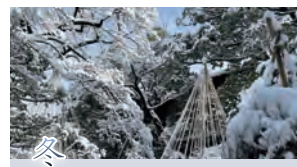
夏

青葉がまぶしい夏の池泉回遊式庭園はときに涼を感じる。



秋

黄緑～黄～橙～赤と毎日変化していく秋の紅葉が楽しめる。



冬

北陸の重い雪から枝を守る雪吊り。真っ白な雪で覆われた幾何学模様の雪化粧を堪能できる。